令和7年度 **発達支援研修通信**

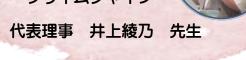
~第1号~

発行者: 和光市保育センター

令和7年10月10日 発行

講師:一般社団法人

プライムシャイン



今年度も一般社団法人プライムシャイン代表 井上先生をお招きして、子どもたちの特性や行動に対しての理解、保護者支援など、各回ごとにテーマを設けて、発達支援の基礎的な知識・スキルを学んでいます。

明日から保育の現場ですぐに実践できる内容となっており、グループワークや体験を通して他園の先生方と共感し合い、楽しく交流しながら知識を深めていきます。

今回は、第1回目と第2回目の研修の内容を、集約してご紹介します。



第1回目 [7月22日(火)]

「こだわり」「落ち着きがない」発達特性を学び、支援に繋げる

発達支援で大切にしたいこと

自分の脳で考えず相手の脳で考える

お散歩に行くのを渋っている子がいる…

- ・連れていくことが正解なのかな(当たり前)
- ・本当に連れていく必要があるのかな?(疑う)
- ⇒自分の当たり前を疑うことから始めよう!

大人は、相手の脳の仕組みを理解すれば、相手に合わせることができる ⇒ 相手(子ども)の脳で考えてみよう!



発達支援において、とても大事なこと なんだね。

前庭感覚と固有受容覚

この感覚に偏りがあ

ると、このような姿が

見られます

前庭感覚

揺れる、スピードを感じる、回転などバランスを感じる感覚

固有受容賞

筋肉の収縮、力加減など、筋肉や関節に 感じる感覚 鈍感

・部屋の中を走り回る

•ブランコにずっと乗っている

敏感

・揺れること、高いところが苦手

ゴロゴロ横になって遊ぶのが好き

鈍感

・力の調整や加減が難しく、床の上 を足でドンドン鳴らして歩く

敏感

体を動かすことが少なく、じっとしていることが多い

*** プローク • 体験



背中合わせに立った状態で、手元を見ずに筋肉を収縮させたり、伸ばしたり、見えないところをイメージしながら、ボールペンを順番に回す体験をしました。



体験を通して、考え方や価値観、感覚の感じ方はみんな違うんだ!ということを改めて感じました。

第2回目 [8月26日(火)]



集団と個の両者を大切にするインクルーシブ保育とインテグレーション保育

インクルーシブ : 包括

障がいの有無に関わらず、同じ活動を行う。 その中で、配慮が必要な場合には支援が当たり前 に保障される。

インテグレーション : 統合

障がいがある子もない子もひとり一人に合わせた 保育が行われる。その子に合わせた環境で、その子 に必要な活動を行う。

<mark>_{グループワーク} インクルーシブの視点で支援の方策を考えてみる</mark>

例えば…

椅子取りゲームへの参加 が難しい…

⇒その時間だけは別のクラ スで過ごすなど、クラスだ けでなく、園全体で考える。

散歩の帰り道で疲れて足が止まってしまう…

⇒行きは「公園に行く」という楽しい目的があるから頑張れるけど、帰りは見通しが持てなくて歩けなくなってしまう。

音が鳴るカプセルを紐に通し体に掛け、振りながら音や感覚遊びを楽しんでいる間にスムーズに歩けるようになる。



運動会での支援

かけっこの場面で…

白線コースの間を走ることが難しい場合は、コースの真ん中に線を引いて、線の上を走る。

みんなと一緒にダンスをするのが難しい… 全員が同じ競技に参加するのではなく、ダンス、親子競技(かくれんぼ)、むかで競争などグループに分けて、それぞれが楽しい!と思える競技に参加する。



みんな同じでなく てもいいんだね!

感触支援グッズの 紹介



感触グッズ"水あめキューブ" 冷凍すると固くなり、手で溶かす のも楽しい♪

"リリアンのゴムひも"

触ったり引っ張ったりしながら、 感触を楽しむ。

タグに付けて身に付けておける。

吹き独楽

参加者の声♪

保育していく中で、日々、皆ちが うことが当たり前を自分に言い きかせながら保育をしていきた いと思いました。

こだわり・・・こだわってオッケー! (ハレルヤ保育園 I・Y 先生) 行事前は、いつも以上に集団を 意識してしまうのですが、得意な こと、苦手なこと一人ひとり違っ て良いということが改めて研修 を通して感じました。直近の行事 で運動会があるので、学んだこ とを活かしていきたいです。

(N•N 先生)

他園での気になる子に対しての 支援方法について、たくさんの 学びがありました。

スモールステップで行って行けるように、まずはその子に合った保育、その子の好きなものを活用していき、支援していきたいと思いました。

(さいたま保育園 T・A 先生)